

令和5年度 第1回 野々市市子ども・子育て会議  
会議録（要旨）

日 時：令和5年11月28日（火）

午後7時～

場 所：市役所2階201会議室

1 出席委員 全体会議 16人（欠席2人）

2 配布資料

資料1 委員名簿

資料2 野々市市子ども・子育て会議条例

資料3 野々市市子ども子育て支援施策の現状

資料4 1 令和5・6年度市内保育園・認定こども園・幼稚園定員

2 令和5年度市内保育園・認定こども園・幼稚園 利用児童数

資料5 令和5年度放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の状況

資料6 （仮称）ののいち子育てステーション整備事業について

資料7 第3期子ども・子育て支援事業計画及び第1期こども計画

3 会議録

◎ 全体会議

1 開会

会議の成立を報告

2 委嘱状（辞令）交付

市長より委嘱状交付

3 市長挨拶

4 自己紹介

委員、事務局職員自己紹介

5 会長・副会長選出

池田委員が会長に、井川委員が副会長に選任

## 6 議事

### (1) 野々市市の子育て支援施策の現状

説明【事務局】 資料3に基づき説明

#### 【委員】

野々市市の保育園や幼稚園に入園されている方で、他市の住所を持つ方の人数を教えてください。

#### 説明【事務局】

手元にある資料が古いのですが、令和3年度の実績で、他市町の方で野々市市の施設を利用した方は69人。逆に野々市市民で他市町の施設を利用した方が93人です。

ただしこの人数は、その年によって大きく増減するものです。

例えば金沢市民が野々市市の施設を利用するケースの多くは、野々市市から金沢市に転出したけれど、今まで通っていた野々市市の保育園に年度中はそのままは通わせたい場合、逆に、野々市市民が他市の保育園に通う場合は今の逆パターンで野々市市に転入した場になります。野々市市は比較的転入転出が多いので、その数によって、毎年大きく実績が変わるということになります。

#### 【扇が丘幼稚園 委員】

幼稚園は市内のみ、などの制限はなく、金沢市も白山市も能美市からも、その幼稚園を選んできてくださったのであれば、どなたでも受け入れています。

#### 説明【事務局】

幼稚園についてはそのとおりです。市民だからという制限はございません。

同じように、今市内に増えてきております、認定こども園につきましては、幼稚園部分と保育園部分と合わさった施設となりますので、幼稚園部分につきましては、一般の幼稚園と同じように、他市町からでも直接申し込むことができます。

ただ、それについても野々市市では、市民だけでも枠がいっぱいになってしまうので、現実的に入園できるかということ、なかなか難しいと思います。

#### 【委員】

子ども家庭庁が矢継ぎ早に様々な政策を出してきており、その中でも、今とても大きく扱われているのが、こども誰でも通園制度というものです。

この通園制度は、0歳から2歳までの子が保育園を利用するのに、保護者が仕事をしている等の制約は一切なく、モデル事業も全国的にされていますが、野々市市は、このモデル事業はせず、一時保育を行っていると聞いています。もちろん一時保育もいろんな課題を持っている方がお預けになるという部分は大きいと思いますが、誰でも通園は、もう少し幅広く受けとめていると思います。

そうすると、一時保育と、制度設計まだこれからのようですが、誰でも通園と、制度としてどのように使っていけばいいのかと思うのです。

今現在、市として、どのように受けとめているか、お聞きしたいと思います。

もう1点は、養育支援訪問についてです。

学童の先生方とも勉強会などを行うことも多いのですが、学童に通う子どもたちのなかにも、この養育機能がとても弱いご家庭が多々あるように思います。

令和4年度は295件の訪問があったとありますが、この内容を簡単で結構ですのでお知らせいただければと思います。

#### 説明【事務局】

こども誰でも通園制度について、野々市市の現状としては、保育園の受け入れ数は各園いっぱい状況で、制度が始まれば受け入れないということではないですが、現実的には余裕がないという状況です。

現時点では、1か月10時間と言われていています。一時保育は12時間使えるけれども、誰でも通園では10時間となると少なすぎるのではという意見も県では上がっていましたので、国や県の動向を見ながら考えていかななくてはならないと思っています。

#### 【健康推進課長 若松委員】

養育支援について、野々市市でも核家族が増えているということ、近くにおじいちゃんおばあちゃんがない子どもの世帯がとも増えています。

そういった状況のなかで、赤ちゃんを産んでもそのあとの育て方がわからない、育児の仕方がわからないというお母さん方が増えています。

直接頼る人がいないとか、一番の協力者でないといけない夫の協力が得られないとか、どうしたらいいかわからないという方に対して、生活指導という形で、特に必要な家庭というところに重点を置いて、保健師等が電話や直接訪問などを行い、支えるような形でサポートをしております。

#### (2) 野々市市の保育園・認定こども園・幼稚園の状況について

説明【事務局】 資料4-1, 4-2に基づき説明

《質疑なし》

#### (3) 放課後児童クラブの状況について

説明【事務局】 資料5に基づき説明

《質疑なし》

#### (4) (仮称) のいち子育てステーションについて

説明【事務局】 資料6に基づき説明

#### 【委員】

プールをなくすことについて、保育園には、園庭の面積や、プールなどの割合の規定はないのですか。

### 説明【事務局】

この園は0歳から2歳児が対象なので、国基準は、2歳児の人数となります。

2歳児を50人と仮定いたしまして、掛ける基準の3.3㎡で、165㎡が必要ということになります。園庭部分の面積は200㎡を確保していますので、国の基準は、上回っているということになります。

プールに関しては、過去には、3～5歳児が広い四角い大きなプールを使用していたのですが、現在の未満児さん0歳～2歳児さんについてはおむつをしていることもあり、大きなプールではなく、ビニールプールや大きな桶のようなものを用意して水遊びをしていますので、水遊びは十分にできると考えております。

### 【委員】

定員は50名ということですか。

### 説明【事務局】

中央保育園全体、0歳～2歳児までの定員は80人を想定しています。

ただし、園庭の国基準は、園庭が必要とされる2歳児以上となっており、この施設に関しては2歳児の人数が基準の広さになりますので、2歳児は多く見積もって50人以上にはならないとして計算しています。

### (5) 第3期子ども・子育て支援事業計画及び第1期こども計画策定について

説明【事務局】 資料7に基づき説明

### 【委員】

資料や第3期子ども・子育て支援事業計画及び第1期こども計画策定について今後の流れを説明聞いていると、これから第3期の計画に入るのだと思いました。

県外ですが、りんごの木子どもクラブという園がありここでは、卒園前に園児たちが1週間何もしなくてもいいからとことん遊ぶ。その遊びの内容は自分たちで決める。何をして遊ぶか、みんなで6つ7つと候補を挙げて、大好きな遊びを1週間とことんやる。これを毎年2月頃にりんごの木子どもクラブは行っているそうです。

遊び切って卒園するのです。これが、幼児教育の姿です。

遊びきって、心の育ち、仲間の育ち、これらを経験して小学校に進んでいく。

こういう経験のためにも、子育てステーションの園庭を、子どもの育つ場所であることはもちろん、地域の方々にも愛されるようなすばらしい園庭にしていきたい。

県下でも、たくさんすばらしい園庭で保育を展開している所がありますので、ぜひ見学されて、すばらしい園庭になることを心から願っております。

## 7 その他

### 【委員】

野々市市の子ども子育て会議に参加させていただくようになりまして、3～4年くらいに

なりますが、いろんな立場の多くの委員の方が集まり、子どものことを考えてくださっているということに、毎回感銘を受けています。

1点目は、子育てステーションの設置基準、児童福祉施設設置基準だったか最低基準があるのですが、10年ぐらい前から守らなくて良くなったのです。国が管理することはなくなりましたが、その代わりに、県か市町がチェックするという制度が残ったのです。つまり、国は待機児童対策として、設置基準は守らなくてよいからもう一つ作っていいですよ、ということになったのですが、今お話聞くと、野々市市はその設置基準を守られて、或いはそれ以上の基準を目指して施設を作っていると聞き、その点も感銘というか、とても期待したいと思っています。

さらに言えば、先ほどもご意見のあったように、園庭をぜひ自然たっぷりのすてきなものにしてほしい。運動場ではなくてよいのです。野々市市ならではの自然たっぷりの園庭を作ってください、かつ保育も新しい保育というか、0，1，2歳の子どもたちを中心した保育を作ってくださいといいな、と期待しています。

2点目は、私は発達心理学が専門で、研究対象、調査対象が幼児期なので、幼児の話になりますが、昨今話題になっている不適切保育について、ここで取り上げるつもりは全くないのですが、やはり子どもたち、保護者、保育士、児童指導員の皆さんのことも、ここでの検討項目に入ってなくて当然なのですが、子どもと共に過ごしている皆さんのことも、少しは心に置いていただけるといいなと思っています。

最後に海外では戦争が始まり、不景気、AIが仕事を奪うなど、暗いニュースばかりですが、もっと大人が、子どもたちに希望を語って欲しいな、とすごく願っています。

なかなか大人が、本心から希望を語ったりしないことが、若い世代が子どもを持ちたがらない一因のような気もしているので、こういうことを丁寧に押さえつつも、私たちが、安心していいよ、子どもを産んでいいし、みんなで育てていこう、と心から期待というか希望を語ってくれる大人が、1人でも増えてくれれば、と思っています。

## 8 閉会